

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調査

都道府県名	宮城県	事業実施主体	宮城県・丸森町	地域再生計画名	地域資源を活かした観光交流・活力ある産業づくりによる東日本台風災害からの復興計画
計画期間	令和４～令和１０年度	評価責任者	丸森町建設課長		

①地域再生計画に記載した 数値目標の実現状況	地域再生計画の目標				基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価		中間目標値の実現状況に関する評価	
	目標		基準年度		年度	中間実績	基準年度	中間評価	中間目標値の実現状況					
	目標 1	①観光交流人口の増加 町内の観光客入込数	30万人/年	R2	40万人/年	R6	53.6万人/年	53万人/年	R10	○	指標 総数	達成 数	町道整備や林道整備の施策等の効果により、目標値を達成できた。	
	目標 2	②木材生産量の増加 素材生産量	22,167㎡/年	H30	23,778㎡/年	R6	36,925㎡/年	27,500㎡/年	R10	○			林道整備の施策等の効果により、目標値を達成できた。	
	目標 3	③森林整備の促進 森林整備（造林・下刈・間伐）面積	281ha/年	R1	292ha/年	R6	148ha/年	320ha/年	R10	×			宮城県提供による町内での造林・下刈・間伐等面積の合計を指標としたが、R3以降下刈面積の集計をしていないため面積減となった。	
目標 4	④自然環境の保全と活用 不動尊公園利用者数	56,228人/年	R2	75,000人/年	R6	77,755人/年	105,000人/年	R10	○	町道整備や林道整備の施策等の効果により、目標値を達成できた。				
②事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価								
			計画	中間年度 (R6)	最終実績 見込み									
特別措置を適用して行う 事業	町道整備事業（整備延長）	8,900m	4,708m	8,900m	計画に対し、路線延長から見る進捗率は、53%と順調である。引き続き、計画に則した整備を目指していく。									
	林道整備事業（整備延長）	1,978m	1,345m	1,978m	計画に対し、路線延長から見る進捗率は、68%と順調である。引き続き、計画に則した整備を目指していく。									
その他の事業	体験型観光の推進	地域資源を生かした体験型観光を推進する。				来訪客に阿武隈川の四季折々の変化を心に刻みながら舟運の歴史を伝える「阿武隈ライン舟下り」や、都市農村住民交流事業「滞在型市民農園」を実施するとともに、観光案内所による情報提供や直売所運営支援等を、SNS情報発信や予約システム導入も含め、観光DXとしてのICT利活用を積極的に行い、丸森の観光、食、文化、歴史などを包括的に推進する体制を構築することにより、地域資源を生かした体験型観光を推進している。								
	森林整備事業の推進	計画的な森林整備（造林及び保育）を実施する。				「丸森町森林整備事業計画」(令和2年度策定)に基づき、再造林の推進や、間伐事業を重点的に実施するなど、計画的な森林整備(造林及び保育)を実施している。								
	自然環境の保全と活用	既存公園等の活用により、自然環境の保全と親しみを持って自然とふれあえる場づくりを進める。				豊かな自然を活かした河川公園や都市公園を適正に管理するとともに、住民ニーズに応じた新たな公園の整備や、「不動尊公園」等の既存公園の活用により、自然環境の保全と親しみを持って自然とふれあえる場づくりを進めている。								
	定住促進事業及び移住マネジメント事業	地域の資源を活かした魅力的な住環境の整備と宅地造成事業による定住施策を推進する。				新婚・子育て世代に対して、若者定住促進住宅や定住促進団地の提供、新築やリフォーム住宅取得、賃貸住宅家賃支援を行うとともに、民間業者へのアパート経営事業や宅地開発事業への支援、併せて「電子母子手帳アプリ」と「オンライン医療相談の連携活用」等、DX子育て支援などによる若者定住施策を推進。また、移住を希望する方に対して、地域が主体となった受入体制を促進することで幅広い世代の定住促進を図る。地域の資源を活かした魅力的な住環境の整備と宅地造成事業による定住施策を推進している。								
計画外で独自に実施した 事業	「丸森地区河川防災ステーション」および周辺施設整備	国土交通省との協働により河川防災ステーションほかを整備。				町と国が連携し、災害時の活動拠点となる河川防災（MIZBE）ステーションの整備を進めている。町で整備する水防センターは、災害時の水防活動の拠点、平常時の災害伝承・防災学習、にぎわいづくりの拠点として、町内の観光施設と連携した周遊観光のゲートウェイとなるよう事業中である。また、周辺の水辺空間を活かし、阿武隈ライン舟下りの発着場や「かわみなとフットパス」や「まちなかフットパス」を整備し、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指している。								
	「阿武隈ライン舟下り」	（一財）丸森町観光物産振興公社との協働により阿武隈川舟下りを運営。				宮城県唯一の舟下りである「阿武隈ライン舟下り」事業は、1965年就航以降、60年にわたり、舟運の歴史と溪谷美を活用した観光船事業として運営されている。現在は、（一財）丸森町観光物産振興公社と丸森町の協働により実施されている。								
③評価方法	令和7年11月に丸森町総合計画等推進委員会を開催し、目標値の実現状況に関する評価・検討等を行う予定。													
④中間評価の公表方法	丸森町建設課のホームページに掲載													
⑤計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した町道整備と林道整備を一体的に実施している。本事業の推進により、最終目標値を達成し、山間部での林業振興や観光・交流人口の増などの効果を概ね発現できると考えている。													
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況					有りの場合その具体的内容								
	地域再生計画の見直し（有・無）					目標「③森林整備面積」においては、宮城県提供による町内での造林・下刈・間伐等面積の合計を指標としたが、R3以降下刈面積の集計をしていないため面積減となった。そのため、目標設定を変更する必要がある。								
	令和〇年度予算要望額への反映（有・無） 有りの場合の増減額 千円													
⑦今後の方針等に対する 対応	本地域再生計画においては、円滑に整備が進んでおり、また山間部での観光・交流人口の増加等も含め目標のほぼ達成が見込まれる。このため、引き続き本地域再生計画に沿って事業を推進していきたい。一方、さらなる山間部での森林整備や観光・交流人口の増を図るために、森林整備事業の推進、体験型観光の推進事業のほか、定住促進事業及び移住マネジメント事業についても、一層強化していきたいと考えている。													